

平成 27 年 3 月 3 日

平成 27 年度国立大学図書館協会海外派遣事情（短期）参加報告書

北海道大学附属図書館利用支援課
磯本 善男

この度、平成 27 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により、GL17 及び GreyForum4.1 に参加したので、以下のとおり報告する。

1. 期間

平成 27 年 11 月 29 日（日）～12 月 4 日（木）（6 日間）

2. 会場

1) GreyForum 4.1 (Pre-Conference Workshop)

Huis de Pinto (アムステルダム, オランダ)

平成 27 年 11 月 30 日（月）

2) GL17: 17th International Conference on Grey Literature

KNAW: Royal Netherlands Academy of Arts and Sciences

(アムステルダム, オランダ)

平成 27 年 12 月 1 日（火）～2 日（水）

3. 会議参加の目的

International Conference on Grey Literature は灰色文献に関する国際会議である。“A New Wave of Textual and Non-Textual Grey Literature” と題され、研究データ等の新しい形態の灰色文献にも焦点が当てられた。2 日間に渡る全体セッションとポスターセッションで構成され、発表者には大学の研究者や図書館関係者等が名を連ねており、ポスターセッションでも多様な発表が行われた。また、前日の GreyForum4.1 にも参加した。今回の会議参加に際し、以下の目的を設定した。

- 1) 欧州における灰色文献への取組について理解を深める
- 2) 大学図書館が灰色文献流通の中で果たせる役割を模索する
- 3) 音声・実験データ等の扱い方を学ぶ
- 4) 参加者と積極的に交流し、人脈を構築する
- 5) 全体セッションに参加し、日本の現状を発信する

4. 会議の概要

1) GreyForum 4.1 (Pre-Conference Workshop)

このフォーラムでは OPF(Open Preservation Foundation)の Ross King 氏、IAEA Nuclear Information Section の Germain St-Pierre 氏、CERN の Tibor Simko 氏から、各機関の製品紹介や取り組んでいるプロジェクトについてのプレゼンテーションがあり、その後参加者によるディスカッションが行われた。

2) GL17: 17th International Conference on Grey Literature

本会議の GL17 では 2 日間にわたり、基調講演の他、4 つの全体セッションとポスターセッションが行われた。全体セッションは以下のとおり。

- ①Convergence of Textual and Non-textual Grey Literature
- ②Influence of Social Media and Networks on Grey Literature
- ③Innovative Ways in Leveraging Grey Document Types
- ④Visualizing Content in and for Grey Communities

ポスターセッションでも多様な発表がされた。優勝は、海洋学の総合情報プラットフォーム MAPS: Marine Planning and Service Platform についての事例報告であった。

5. 成果

GL は会議名称こそ灰色文献の名を冠しているが、今回の会議で取り上げられた内容は従来の灰色文献のみならず、研究成果に付随するデータ等も主要なテーマとなっており、現在日本でも議論の活性化が望まれるオープンサイエンスに関して、大いに参考となるものばかりであった。参加者のほとんどが研究職、もしくは研究職を兼ねた Librarian であり、自らの研究分野における灰色文献についての発表が多かった。研究データを含む灰色文献は、各分野によって形態や扱いが異なっているため、オープンサイエンスと一括りにして、図書館のような 1 つの部署だけで推進していくのは難しく、研究者や他の部署との連携が不可欠だと感じた。この会議を通じて海外の灰色文献、オープンサイエンスに関するプロジェクトや多種多様なデータを公開するツールについて多くの情報を得ることができたので、今後はこれらの知見を大学図書館だけでなく、研究者を含めた多くの大学関係者に広めていきたい。また、オープンサイエンスに関する政策等に注視していくのは勿論だが、研究データ等のこれまで図書館が扱ってこなかった種類のコンテンツの収集・公開については、これまで以上に研究者等と連携して取り組んでいかなければ、世界のオープンサイエンスの潮流から取り残されていくのではないかという危惧を抱いた。

今回、全体セッション①において発表する機会をいただけたので、日本における学術情報流通の現状を発表した。会議を通して、運営組織である GreyNet の方々と繋がりを築くこともできたので、今後も灰色文献やオープンサイエンスについて、海外の情報を収集するとともに、日本からの情報発信にも努めていきたい。